

## 鹿児島県における平成28年産さとうきびの生産状況および実績について

公益社団法人 鹿児島県糖業振興協会

### 【要約】

鹿児島県の平成28年産さとうきびは、収穫面積1万20ヘクタール（前年比98.5%）で、生産量63万6217トン（同126%）であった。

台風などの大きな気象災害もなく、天候にも恵まれたことから、6年ぶりに60万トンを超え、平均糖度が前年を0.12度上回る13.98度と量・質ともに充実した年となった。

## 1. さとうきびの位置付け

さとうきびは、他作物に比べて、台風や干ばつに強く、鹿児島県南西諸島の7割強の農家が生産している基幹作物であり、製糖会社とともに、地域経済を支える重要な役割を担っている。

さとうきびの平成27年農業産出額は、約110億円（前年比110%）で、耕種部門の第4位となっている（1位:米、2位:さつまいも、3位:茶〈生葉〉）。

鹿児島県では、18年6月に27年産を目標年とする「鹿児島県さとうきび増産計画」を策定し、生産者、製糖会社、関係機関・団体と連携しながら、栽培面積の確保や単収向上などの取り組みを進めてきた。

しかし、23年産以降、台風などの気象災害や病害虫被害などにより、同計画で定めた目標を達成できない状況が続き、早期の生産回復・増産に向けた取り組みが課題となっていたことから、各島ごとに、これまでの計画達成状況を検証・評価するとともに、現状における課題およびその解決方策などを整理し、27年12月に新たに37年産を目標年とする計画として改定し、各島の施策を推進しているところである。

表1 さとうきび栽培農家戸数など（平成28年産）

地域	農家戸数	さとうきび栽培農家戸数	さとうきび栽培農家割合	1戸当たり収穫面積
	戸	戸	%	a
種子島	2,892	1,914	66.2	125.6
奄美	9,519	5,900	62.0	129.1
計	12,411	7,814	63.0	128.2

資料：鹿児島県調べ

## 2. 平成28年産さとうきびの生育状況

### (1) 種子島地域

#### ア 生育初期～分けつ

生育初期は、比較的、気温・日照・降水条件に恵まれ、適期の植え付け（春植え）や萌芽が良い早期株出し管理圃場<sup>ほじょう</sup>では、おおむね順調に生育した。6月初旬までは、生育は遅れ気味で、茎数も平年に比べて少なかった。

#### イ 伸長期

気温は高めで多照、少雨で経過し、茎伸長は平年を上回って推移した。

#### ウ 登熟期

10月の降雨による倒伏などにより受光態勢が悪

くなるなど登熟が進まなかったが、11月下旬には  
 平年並みまで登熟が進んだ。

翌1月には常霜地帯を中心に降霜が発生した。

## (2) 奄美地域

### ア 生育初期～分けつ

生育初期は、比較的、気温・日照条件に恵まれ、  
 おおむね順調に生育したものの、島ごと、栽培型ご  
 とにばらつきが見られた。また、一部ではメイチュ  
 ウなどの被害も散見された。

### イ 伸長期

台風などの大きな気象災害もなく順調に生育し、  
 茎伸長は平年を上回って推移した。

### ウ 登熟期

生育は良好で登熟も順調に進み、島ごとにばらつ

きはあるものの、全体的に糖度は上昇した。

## 3. 平成28年産さとうきびの 生産実績

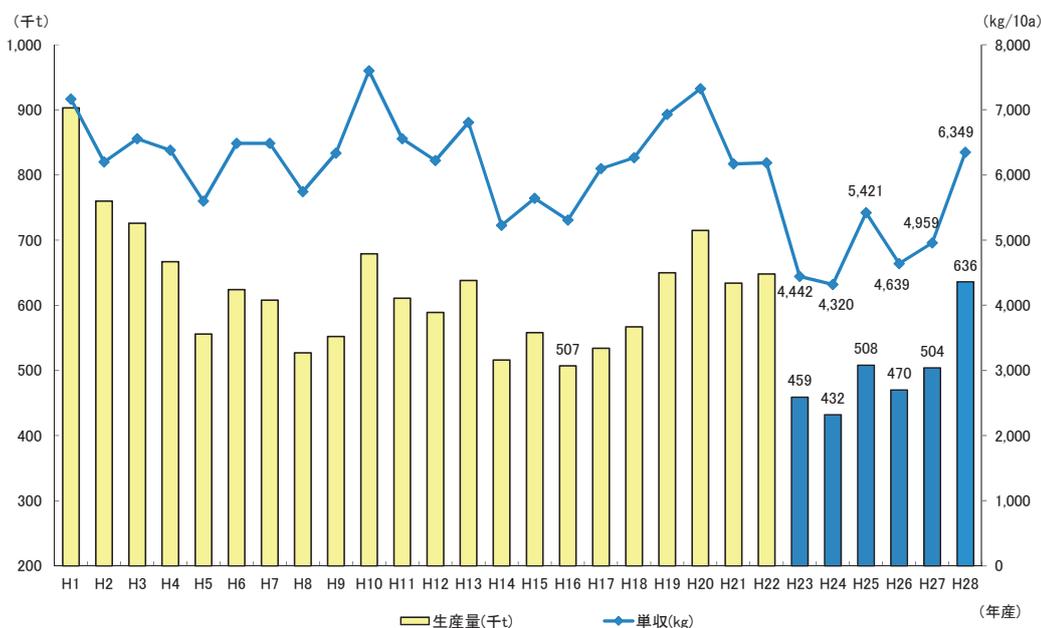
### (1) 県全体

収穫面積は1万20ヘクタール（前年比98.5%）、  
 生産量は63万6217トン（同126%）となり、10  
 アール当たり収量は6349キログラム（平年比  
 112.8%）であった（図1）。

生産量、10アール当たり収量ともに、さとうき  
 び増産計画の目標（平成28年産）を1割強上回った。

なお、生産量の99%（63万187トン）は、分み  
 つ糖原料用として6社7工場で集荷されている。

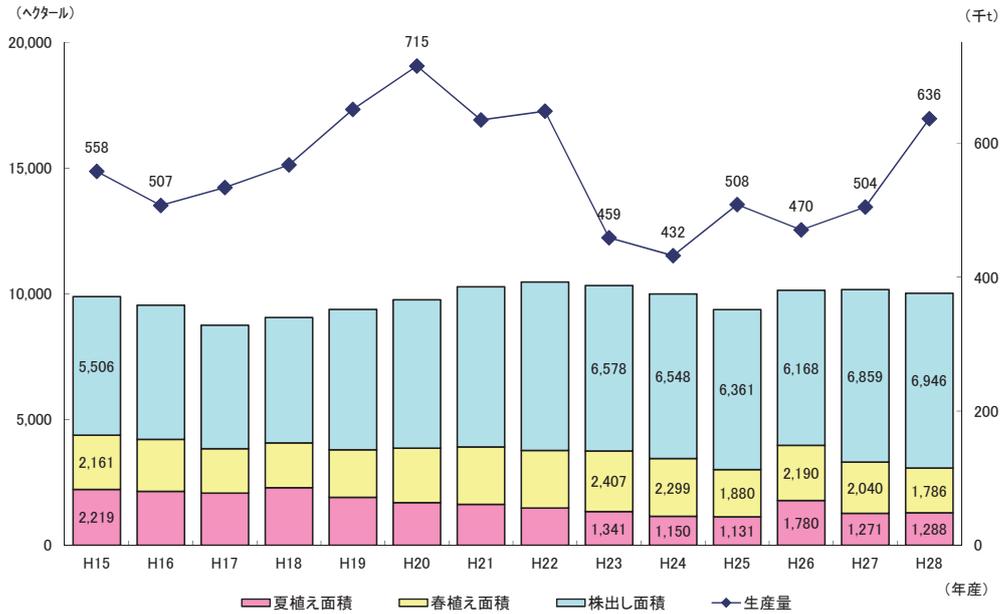
図1 さとうきびの単収と生産量の推移



栽培型別の収穫面積は、春植えが1786ヘクタール  
 （構成比18%）、株出しが6946ヘクタール（同  
 69%）、夏植えが1288ヘクタール（同13%）であっ

た。さとうきび増産計画における株出し割合の目標  
 は66.2%で、実績が目標値を約3ポイント上回っ  
 ている（図2）。

図2 栽培型別の面積と生産量の推移



品種別の収穫面積は、農林8号が43%を占め、次いで農林23号の22%、農林22号の15%、農林17号の3%の順であった。平成16年産で約7割を

占めていた農林8号の比率が年々減少し、各地域の気象条件などに適した新しい品種への移行が進みつつある（図3）。

図3 品種別面積割合の推移

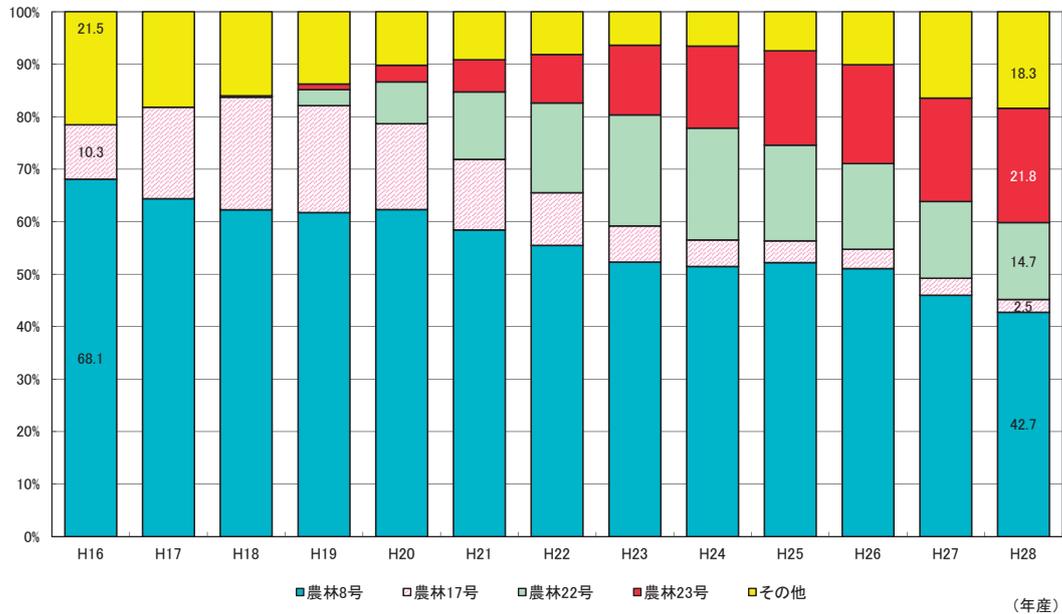


表2 主な奨励品種の特徴（鹿児島県）

品種名	選定年度	特徴
農林8号	H2	多収、早期高糖、株出し萌芽が良い
農林17号	H13	株出多収、耐倒伏性強
農林22号	H17	多収、早期高糖、風折抵抗性強
農林23号	H17	多収、高糖、干ばつ条件下でも生育が良い

## (2) 各島の状況

### ア 種子島（西之表市、中種子町、南種子町）

収穫面積は2404ヘクタール（前年比96%）で、生産量は15万8580トン（同127%）となり、10アール当たり収量は6597キログラム（平年比98%）であった。

株出し比率は67%で、品種別では、農林8号が74%、早期高糖性の農林22号が16%を占める。

### イ 奄美大島（奄美市外3町村）

収穫面積は589ヘクタール（前年比96%）、生産量は2万9302トン（同135%）で、10アール当たり収量は4971キログラム（平年比108%）と、島別では最も低い収量となった。

株出し比率は68%であり、品種別では、農林22号が33%、農林23号が24%、農林17号が16%を占める。

### ウ 喜界島（喜界町）

収穫面積は1430ヘクタール（前年比107%）、生産量は9万6712トン（同129%）となり、10アール当たり収量は6763キログラム（平年比110%）であった。

株出し比率が63%を占める一方、夏植えの比率も27%と高い。品種別では、農林23号が35%、農林8号が25%を占める。

### エ 徳之島（徳之島町、天城町、伊仙町）

収穫面積は3587ヘクタール（前年比96%）で県全体の36%を占め、島別では最も多い。生産量は22万2539トン（同132%）と前年産から大きく増加した。10アール当たり収量は6204キログラム（平年比124%）であった。

株出し比率は73%で、品種別では、農林8号が38%、農林23号が34%を占める。

### オ 沖永良部島（和泊町、知名町）

収穫面積は1587ヘクタール（前年比101%）、生産量は9万6525トン（同112%）で、10アール当たり収量は6084キログラム（平年比111%）であった。

株出し比率は67%を占める一方、夏植えの比率も24%と高い。品種別では、農林8号が45%、農林22号が41%を占める。

### カ 与論島（与論町）

収穫面積は423ヘクタール（前年比102%）、生産量は3万2559トン（同122%）、10アール当たり収量は7697キログラム（平年比148%）と県内で最も高く、前年産に引き続き生産回復が続いている。

株出し比率は82%を占め、島別では最も高い。品種別では、農林23号が61%を占める。

表3 島別の生産実績（平成28年産）

地域	収穫面積	生産量	10a当り	平年比
			収量	
	ha	t	kg	%
種子島地域	2,404	158,580	6,597	98
奄美地域	7,616	477,637	6,272	120
奄美大島	589	29,302	4,971	108
喜界島	1,430	96,712	6,763	110
徳之島	3,587	222,539	6,204	124
沖永良部島	1,587	96,525	6,084	111
与論島	423	32,559	7,697	148
計	10,020	636,217	6,349	113
【参考】 過去最低	8,718 (H9)	431,874 (H24)	4,320 (H24)	

資料：鹿児島県調べ

注：平年値は過去10年（H18～27）の中庸8年の平均値。

### （3）ハーベスタによる収穫の状況

さとうきびの労働時間の大半を占める収穫作業の省力化を図るため、国庫補助事業などを活用してハーベスタの導入が進められている。

また、県では平成23年度から、低コストで持続的な生産体制の確立を図るため、耐用年数を経過したハーベスタの機能向上（長寿命化）に向けた事業を実施しており、28年度までに42台の取り組みを支援した。（23年度：10台、24年度：14台、25年度：5台、26年度：8台、27年度：3台、28年度：2台）

この結果、28年産では、収穫面積全体の90%、約9000ヘクタールでハーベスタ収穫が行われてお

り、島別に見ると、徳之島では最も高い96%となっている。

## 4. 製糖工場の操業状況

分みつ糖製造は、1島1社の体制となっており、6島6社（7工場）が操業している。

分みつ糖工場における平成28/29年期の原料処理量は63万187トンで、前年から13万1269トン増加した。買入糖度は13.98度で、前年から0.12度高くなった（表4）。

表4 製糖工場ごとの操業実績

島名	会社/工場名		操業期間	原料処理実績							
			操業開始	H28				増減 (H28-H27, H28/H27)			
			操業終了	原料処理量	歩留	産糖量	買入糖度	原料処理量	歩留	産糖量	買入糖度
			t	%	t	度	t	p	t	度	
種子島	新光糖業	中種子	12/5 4/19	158,209	11.22	17,744	13.00	33,288t 127%	0.36	4,181t 131%	0.19
奄美大島	富国製糖	奄美	1/8 3/26	26,386	12.47	3,291	14.49	6,662t 134%	0.54	937t 140%	▲0.02
喜界島	生和糖業	喜界	12/15 3/30	95,834	12.19	11,685	14.29	22,012t 130%	0.01	2,692t 130%	0.19
徳之島	南西糖業	伊仙	12/22 4/7	114,794	12.59	14,456	13.89	29,192t 134%	0.04	3,716t 135%	0.00
		徳和瀬	12/22 4/10	105,905	12.73	13,483	13.84	24,222t 130%	▲0.07	3,026t 129%	▲0.34
		計		220,699	12.66	27,938	13.87	53,414t 132%	▲0.01	6,741t 132%	▲0.16
沖永良部	南米糖業	和泊	12/4 5/3	96,500	12.75	12,308	15.02	10,041t 112%	0.70	1,889t 118%	0.66
与論島	与論島製糖	与論	1/7 4/24	32,559	11.90	3,876	15.00	5,853t 122%	0.44	816t 127%	0.15
奄美地域計				471,978	12.52	59,097	14.30	97,981t 126%	0.21	13,074t 128%	0.10
県計				630,187	12.19	76,841	13.98	131,269t 126%	0.25	17,255t 129%	0.12

資料：日本甘蔗糖工業会調べ

注：富国製糖は、別に1414トンの原料を含みつ糖用に圧搾し、202トンの含みつ糖を製造している。

## おわりに

鹿児島県では、関係機関・団体と一体となり、各種補助事業などを活用して、収穫面積の確保や基本技術の励行などによる単収向上対策を推進するとともに、農業機械の導入、製糖関連施設の整備などへの支援などの取り組みを積極的に推進しているところである。

今後とも、さとうきび生産農家の経営の安定と、

製糖会社等関連産業の維持発展を図るため、さとうきび増産計画で定めた平成37年産の目標達成に向け、大規模経営体・農作業受託組織等担い手の育成や、農業共済制度への加入促進による「経営基盤の強化」、機械化一貫体系の普及・確立や地力増進による「生産基盤の強化」、病虫害防除対策および鳥獣被害対策の推進や優良品種の育成・普及による「技術対策」などに取り組むこととしている。